

JSS 四国 第10回地方会のお知らせ

実行委員長 渡邊 亮司（済生会今治病院）
主催 JSS 四国地方会 日本超音波検査学会

装置提供：アロカ株式会社

JSS四国第10回地方会を下記のとおり開催いたします。

今回のテーマは「超音波検査と診断・治療とのコラボレーション—Part2 連携による診断と治療—」です。超音波検査が患者様に有益であるためには、臨床とのコラボレーション（協力、共同作業）は、必要不可欠であると思います。

今回は第一部で腹部超音波検査の講演を、第二部では泌尿器領域の臨床と超音波、第四部では乳腺領域の病理と超音波のコラボレーションした講演をしていただきます。第三部では、一般演題として各施設の超音波検査と連携した取り組みについて様々な報告をしていただきます。多数の皆様にご参加いただけますようご案内申し上げます。

記

テーマ：『超音波検査と診断・治療とのコラボレーション Part2—連携による診断と治療—』

日 時：2009年2月22日（日）9時30分～17時00分

会 場：愛媛大学医学部第一臨床講堂

参加費：正会員・事前登録：1,000円、正会員・当日受付：1,500円 非会員（事前登録なし）：3,000円

ご注意：＊事前登録受付期間：2009年1月15日～1月29日（※2009年1月8日～WEB先行受付）

定員：200名

※変更となる場合もあります。詳細は学会ホームページ（<http://www.jss.org/>）をご参照ください。

＊事前登録は登録時点で入会が承認されている会員の方のみご利用が可能です。

非会員の方や入会手続中の方はご利用いただけません。

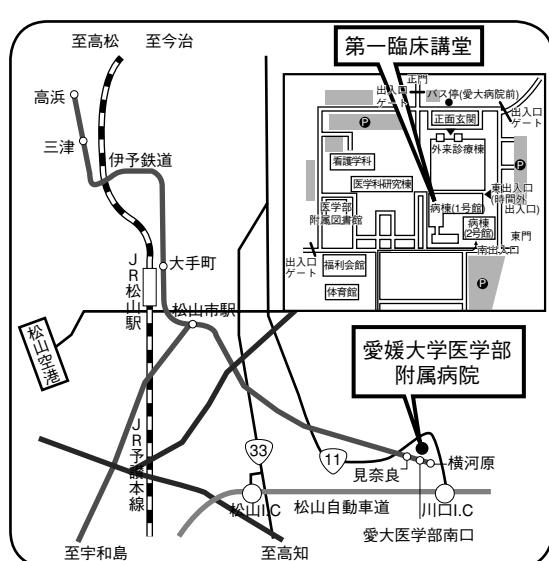
＊事前登録のみで定員に達した場合は、未登録の方の当日ご参加はお受けできません。

＊空席がある場合のみ当日参加をお受けいたしますが、受付開始は事前登録の方を優先させていただきます。

＊地方会ご参加の方は事前登録の有無に関わらず会員証をご持参ください。

＊会場内でのビデオカメラおよびデジタルカメラでの撮影は禁止といたします。

＊本会は、日本超音波医学会認定の超音波検査士資格更新、5単位が取得できます。



愛媛大学医学部第一臨床講堂

愛媛県東温市志津川

【バス利用の場合】

□川内線（伊予鉄バス）「愛大病院前（附属病院玄関前のバス停）」で下車し、徒歩1分です。

□新居浜線（伊予鉄バス・瀬戸内バス）「愛大医学部前」で下車し、徒歩約3~4分です。

【高速バスの場合】

□各高速バス路線「川内インター」で下車し、タクシー（要予約）で、約7~8分です。

【電車利用の場合】

□伊予鉄道横河原線「愛大医学部南口」で下車し、徒歩約7分です。

【自動車等で高速道路利用の場合】

□高速道路松山自動車道「川内IC」をおり、松山方向へ進んでください。2つ目の交差点を左折し、5分ほど道なりに進むと左側に見えます。

会場は東入口（時間外出入口）より病棟1号館1階を通り抜けたところより2階へ上がってください。

連絡先：〒799-1592 愛媛県今治市喜多村7-1-6 済生会今治病院検査科 渡邊 亮司

TEL: 0898-47-2500 (内線: 3142) E-mail: jss-shikoku@jss.org (できるだけEメールでお願いします)

JSS 四国 第 10 回地方会 プログラム

2月 22 日(日)

9:00～9:30	受付
9:30～10:10	第Ⅰ部 講演 講 演:「腹部超音波検査のちょっとしたコツー腹部をスクリーニングしようー」 講 師:土居 忠文(高知大学医学部付属病院 検査部) 司 会: 高須賀 康宣(独立行政法人国立病院機構四国がんセンター生理機能検査室) スクリーニング検査は一見やさしそうに思えますが、実は熟練者が行うべき検査です。それは、短時間に精度良く確実に病変を捕らえなければならないからです。そんな訳で、いつも検査時はスクリーニング気分で、いかに短時間で確実に病変を捕らえることができるか試行錯誤しながら行っています。そんな、ちょっとしたコツを紹介しながら、スクリーニング検査について皆様と共に考えてみましょう。
10:10～10:15	休憩
10:15～12:35	第Ⅱ部 講演:泌尿器領域 講 演:「臨床と US 診断のコラボレーションー泌尿器科疾患編ー」 臨床の立場から-講 師:秋山 隆弘(近畿大学医学部教授, 近畿大学医学部附属病院顧問) ソノグラファーの立場から-講 師:尾上 篤志(恒進会病院南大阪腎臓病センター 超音波室) 司 会: 西森美佐子 (だいいちリハビリテーション病院 超音波検査室) 臨床現場と超音波検査現場には、密接なコンタクトがないため折角の超音波技術レベルが宝の持ち腐れになり、最終的に患者さんに利益が還元されていないというケースも少なくない。臨床医は何を求めているのか? 検査技師は何を求められているのか? を合致させるためにはお互いの情報や要望のキャッチボールが必須である。ラリーをしながらの US 検査の遂行とはどんなものかについて、幾つかの泌尿器科疾患を題材として示しながら、診療現場と US 検査室のコラボのあり方を皆さんと一緒に考えてみたい。
12:35～13:30	昼食
13:30～14:30	第Ⅲ部 一般演題 座 長:渡邊 亮司(済生会今治病院 検査科) 1. 整形外科領域のコラボレーション 西森 美佐子(だいいちリハビリテーション病院超音波検査室) 2. 当院腹部エコー室における臨床との関わり～泌尿器科領域について～ 宇都宮 大(済生会西条病院臨床検査科) 3. 人間ドックにおけるメタボ受診者の超音波所見についての検討 蟹谷 和見(徳島県総合健診センター検査室) 4. 臨床とのコラボレーションの必要性 谷内 亮水(高知医療センター医療技術局治療技術部) 会員による各施設においての超音波検査と臨床や他の部門との連携した活動や取り組みを一般演題として報告していただきます。
14:30～14:40	休憩
14:40～17:00	第Ⅳ部 講演:乳腺領域 乳腺疾患は組織型の種類が多く、さらに一つの組織型でもさまざまな組織像を呈するがあるため、非常に多彩で複雑です。乳腺超音波診断の精度向上のためには、超音波像から組織像を推測し組織型を推定することが重要です。 超音波基調講演 乳腺超音波画像の成り立ちと判読 講 師:尾羽根範員(住友病院 超音波検査部) 乳腺疾患の組織型を意識して超音波像を判読するポイントと、その基となる超音波画像の成り立ちについて講演します。 病理基調講演 乳腺超音波診断のための病理学 講 師:堀井 理絵(癌研究会明石病院 病理部) 超音波像と対比しやすいルーペ像を提示しながら、病理組織診断を行う際の考え方をお話します。